

職員行動指針「5つの心得」及びコンプライアンスの職員への浸透について(案)  
(三重県職員クレドカード)

平成25年7月17日  
戦略企画部  
総務部

職員の業務遂行にあたっての行動指針「5つの心得」(以下「5つの心得」という。)及び「コンプライアンス」について、職員への浸透を図るため、以下のとおり取り組む。

## 1 カード化による浸透

職員が常に携帯し、「5つの心得」及び「コンプライアンス」を意識することができるよう、全職員に名刺サイズのカードを配付する。

なお、全都道府県を調査した結果、行動指針等を作成している24府県のうち、13県がカード化して活用している。

### (1) 目的

職員が「5つの心得」及び「コンプライアンス」を常に意識しながら業務に取り組み、三重県職員としての責任と自覚を持続させる。

### (2) 内容

「5つの心得」及び「コンプライアンス宣言」について、カードに記載する。(詳細別紙)

### (3) 規格

- ・ 55mm×91mm (名刺サイズ)  
⇒常にカードを携帯しやすいように名札に入るサイズ
- ・ 二つ折り



### (4) 特徴

本人の氏名記入欄を設け、職員のカードに対する意識を高める。

また、用紙には、通常の普通紙ではなく、簡単に破損することがないようコーティング紙等を使用することで、カードに対する愛着を職員が持てるようにする。

### (5) 活用方法例

#### ①個人単位での活用

(具体例) 日々の業務に追われ、目の前の仕事をこなす作業になりがちのところ、カードの心得2「仕事の「そもそも」の目的や大義を意識する」を改めて読み返すことで、仕事に対する姿勢を問い直すきっかけとする。

## ②職場単位での活用

(具体例) 新規採用職員に、県民の皆さんと向き合い、共有する現場がいかに重要かについて、カードの心得3「現場の重視」を使って教えるなど、OJTの指導ツールとして活用する。

## 2 その他の浸透方法

### (1) 各所属単位で行う朝礼・ミーティング等における確認

内容を理解する機会を設けることは浸透を図るうえで重要であることから、各所属で行う朝礼やミーティング実施時に、その内容、趣旨を確認する。(例：5つの心得の項目の一つを読み上げ、業務において活用(応用)すべき点を確認しあうなど)

### (2) 研修における周知

職員研修センターで行う階層別研修などにおけるコンプライアンス研修において周知する。(平成25年度より実施)

なお、全都道府県の調査では、10県で階層別研修を、4県で各所属研修を実施している。

### (3) 庁内放送

毎週1回、始業時に「5つの心得」の項目及び「コンプライアンス宣言」について庁内放送を行い、短い周期で継続的に職員に意識喚起を図る。

## 3 スケジュール(案)

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 7月17日(水) | 部長級会議               |
|          | →カードの導入及び活用方法について説明 |
| 8月1日(木)  | カード使用開始             |
| 8月5日(月)  | 庁内放送(本庁舎)開始         |

## ※ クレド

クレド(Credo)とは「信条」「志」「約束」を意味するラテン語で、企業活動の拠り所となる価値観や行動規範(指針)を簡潔に表現した文言、あるいはそれを記したツールを指します。

# 三重県職員クレドカード（案）

（表紙）

**三重県職員クレドカード**

「幸福実感日本一」の三重を  
めざして



県民とともにアクティブ  
に、新しい三重を創って  
いく日本一の職員へ

氏名

（裏表紙）



**コンプライアンス宣言**

私は、法令や社会規範、  
ルール、マナーを遵守す  
るとともに、公正・誠実  
に職務を遂行し、説明責  
任を果たすことによっ  
て、県民の皆さんの信頼  
に答えていくことを誓  
います。

（見開きページ）

**職員行動指針  
「5つの心得」**

**心得1 まず目線を変える**  
県民としての目線や「肌で感じる」  
を忘れず、「自らも県民」であるとい  
う原点に常に立ち返ること、また、  
業務を行うにあたり、空を飛ぶ鳥の  
ように高いところから大きな視点で  
ものを見る「鳥の目」、虫が目の前  
の葉っぱを凝視する如く集中して見る  
「虫の目」、魚が水の流れに乗りなが  
ら周りや行く先をうかがうように世  
の中の潮流を把握しようとする「魚  
の目」の3つの目を常に意識する。

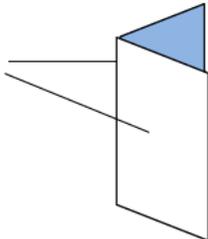
**心得2 「そもそも」の目的や大義  
と、実感される「成果」を常に意識**  
自分の仕事の「そもそも」の目的  
や大義などを常に意識し、県民の皆  
さんにとっての「成果」とは何であ  
るかを見極めることで、事業を実施  
すること自体が目的となってしまう  
「やりました」・「やっています」思考  
から脱却し、県民の皆さんに成果が  
届いているかという視点を常に持  
つ。

**心得3 現場とスピード感を重視**  
職員一人ひとりが徹底的に現場を  
重視し、関係者と向き合い、思いを共  
有し、積極的に関係を構築していくこ  
と、また、従来の行政の時間感覚を改  
め、何事もスピード感を持って対処す  
るとともにタイミングを逸すること  
がないよう意識する。

**心得4 県庁全体の組織力と職員  
力の磨き上げ**  
「部局益を忘れ、県益を想え」との  
意識で部局間の縦割りを打破すると  
ともに、チームワークを重視し、職員  
間のコミュニケーションを活発化す  
ることで組織力を高める「話し合い、  
磨き合い、支え合い」の職場づくりを  
進める。

**心得5 恐れず、怯まず、変革を**  
「変えること」によるリスクより  
も、「変えないこと」や「放置するこ  
と」によるリスクの方が大きい時代。  
職員一人ひとりが「変えてはいけない  
こと」、「変えてもいいこと」、「変えな  
くてはいけないこと」を判断し、職務  
を遂行する。

表紙・裏表紙



見開きページ

